

佐志岳

令和元年12月
文責：森健治

2学期を振り返って

早いもので令和元年度の2学期が終わろうとしています。子どもたちは、この2学期も様々な行事や取り組みを通じて、たくさん思い出や体験を積み重ねることができました。子どもたちの元気いっぱいあいやつと笑顔、そしてひたむきさで私たち教職員も日々の生活を充実したものにすることができました。時には微笑み、そして時には叱り、愛情をもって子どもたちに関わった分、子どもたちからはたくさんのご褒美をいただきました。

- ① 3年生修学旅行での中学生最後の思い出づくり
- ② 2年生職場体験学習での積極的な仕事体験
- ③ 1年生野外宿泊学習での自然・仲間とのふれあい
- ④ 辛い練習を乗り越え掴んだ県駅伝大会の切符
- ⑤ 各学年の美しい歌声と思いの詰まった舞台発表をした文化発表会



③ 3年生抜けた後の大きな穴を痛感した市新人大会など大きな行事だけ数えあげてもきりがありません。日常の生活の中でも声をかける度に温かい人間味のある返事が返ってきて、穏やかでかつエネルギーをいっぱいもらえる子どもたちがこの学校にはたくさんいることが本当に幸せだなあと感じました。残る3学期も今以上の思い出づくりに精を出してほしいと願います。そして、私たち教職員との関わりをもっと密にしてお互いが切磋琢磨しながら成長していけるよう願うばかりです。



風船に思いを込めて！ 南部中の願いは届け！



12月10日（火）人権学習会を行い、風船に人権の願いとひまわりの種を添えて飛ばしました。

多目的研修センターにて、まず、各学年の学習内容の発表がありました。

- 一年生…「身近な差別について考えよう」
- 二年生…「世界の差別に目を向けよう」
- 三年生…「福祉に学ぼう」

の学年テーマに沿って、実演・模造紙・プレゼンテーションなどの方法で発表をしました。人権標語優秀賞の発表のあと、屋外での風船プロジェクトを行い、小鳩保育園児とともに約150個の風船を飛ばしました。穏やかな風に乗って南部の願いが届くこと祈って！！

早速、福岡県京都郡の方から、この風船プロジェクトに関する心温まるメッセージが届きました。抜粋してご紹介いたします。「少し認知のある母が『こんなものが落ちてた』と見つけてきました。平戸から飛んできたものかとびっくりして、学校のホームページの『人権集会』の記事を確認しました。黒いヒマワリの種、母も『植えてね！』と喜んでいました。」平戸・福岡の遠い距離が縮まった1つの温かい贈り物となったようでとても嬉しいつながりができました。

今年の漢字一文字は「**令**」。令和時代

の幕開けである今年を象徴する漢字であったことは皆さんも感じることでしょう。万葉集の序文（今月）からの出典であり、『素晴らしい月』という意味。「令」は「吉」に通じ、めでたい、和やかななどの意味合いがあるとも言われています。人名に使われた際には「おさ」「なり」「のり」「はる」「よし」などの読み方もできるようです。今年一年間が南部中学校にとっても、穏やかで健やかに子どもたちが成長してくれたいと感じています。様々な行事に積極的に協力いただいた保護者の皆さまに感謝いたします。

現在休職中である**教諭**は、3学期途中からの復帰の予定ですが、ご心配をおかけしてありますが、復帰の際には、またお知らせいたします。